

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和7年1月24日

協議会名: 釜石市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名: 地域内フィーダー系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(2事業年度前)(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
株式会社岩手旅行社	<p>・北部コミュニティバス</p> <p>利用状況の推移を捉え、運行ダイヤの見直し等を検討するとともに、バス待合環境の整備や利用促進を図るための状況確認等を行い、事業の周知に力を入れる。</p>	<p>【前回(2事業年度前)の評価結果】 コロナ禍により利用者数は目標値に届かなかったことから、三陸鉄道や県交通バスとの接続時間の見直しや、運転免許証の返納者に対する割引制度の周知等を継続的に行い、生活に配慮した利便性の高い公共交通を目指していく。</p> <p>【評価結果の反映状況】 ・市内公共交通ワーキンググループによる将来を見据えた公共交通の在り方の検討。 ・老朽化した木製バス待合所の修繕を実施しバス待合環境の整備を行った。 ・市内高等学校に通う生徒に対し通学方法アンケートを実施し通学手段の把握を行った。</p>	<p>A</p> <p>事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>【目標値】 令和2年度比で令和7年度までに5%利用者増 R2→R6=6,791人→7,070人</p> <p>【実績値】 ①R2 6,791人 ②R3 5,944人 ③R4 4,752人 ④R5 4,428人 ⑤R6 3,303人</p> <p>【達成率】 46.7%(R6目標値比)</p> <p>昨年実績と比べ、利用者数は減少した。R2年度以降、利用者は年々減少しているため、利用者の推移を確認しながら、現状把握に努め検証していく(評価C)。</p> <p>【評価の判定基準】 A: 目標を達成した。 B: 目標達成80%以上100%未満 C: 目標達成80%未満、又は、補助対象外(1運行当たり2人未満、運行割合30%未満)</p>	<p>三陸鉄道や民間路線バスとの接続に留意したバス時刻としたが、今後も、待ち時間の調整や、運転免許証を返納した住民等への割引制度の周知を行っていく一方で、収支の改善を図るため、運行ダイヤや運賃、運行ルート等の調整を検討する。</p> <p>加えて、生活応援センターで開催される行事等に参加する際、支線部バスを利用していただく等、日常利用に配慮した利便性の高い公共交通として引き続き住民に周知する。</p> <p>また、みちのく潮風トレイル等で千畳敷などの三陸ジオパークを訪れる観光客から支線部バスダイヤの問い合わせも増えていることから、観光客を迎え入れる足としての役割も担えるよう、路線の周知など啓発活動を継続的に行っていきたい。</p>

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(2事業年度前)(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
株式会社岩手旅行社 株式会社釜石タクシー	・南部コミュニティバス 利用状況の推移を捉え、運行ダイヤの見直し等を検討するとともに、バス待合環境の整備や利用促進を図るための状況確認等を行い、事業の周知に力を入れる。	【前回(2事業年度前)の評価結果】 コロナ禍により利用者数は目標値に届かなかったことから、三陸鉄道や県交通バスとの接続時間の見直しや、運転免許証の返納者に対する割引制度の周知等を継続的にを行い、生活に配慮した利便性の高い公共交通を目指していく。 【評価結果の反映状況】 ・庁内公共交通ワーキンググループによる将来を見据えた公共交通の在り方の検討。 ・市内高等学校に通う生徒に対し通学方法アンケートを実施し通学手段の把握を行った。	A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。	【目標値】 ①令和2年度比で令和7年度までに5%利用者増 R2→R6=7,876人→8,190人 【実績値】 ①R2 7,876人 ②R3 6,953人 ③R4 5,777人 ④R5 5,931人 ⑤R6 5,862人 【達成率】 C 71.6%(R6目標値比) 昨年実績と比べ、利用者数は減少したが、R4年度から6,000人程を維持しており、地域に欠かせない移動手段となっているものと推測する(評価C)。 【評価の判定基準】 A: 目標を達成した。 B: 目標達成80%以上100%未満 C: 目標達成80%未満、又は、補助対象外(1運行当たり2人未満、運行割合30%未満)	三陸鉄道や民間路線バスとの接続に留意したバス時刻としたが、今後も、待ち時間の調整や、運転免許証を返納した住民等への割引制度の周知を行っていく一方で、収支の改善を図るため、運行ダイヤや運賃、運行ルート等の調整を検討する。 加えて、生活応援センターで開催される行事等に参加する際、支線部バスを利用していただく等、日常利用に配慮した利便性の高い公共交通として引き続き住民に周知していく。

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(2事業年度前)(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
前勝タクシー有限会社	<p>・にこにこバス(箱崎白浜方面)</p> <p>利用状況の推移を捉え、運行ダイヤの見直し等を検討するとともに、バス待合環境の整備や利用促進を図るための状況確認等を行い、事業の周知に力を入れる。</p>	<p>【前回(2事業年度前)の評価結果】</p> <p>コロナ禍により利用者数は目標値に届かなかったことから、三陸鉄道や県交通バスとの接続時間の見直しや、運転免許証の返納者に対する割引制度の周知等を継続的に行い、生活に配慮した利便性の高い公共交通を目指していく。</p> <p>【前回評価の反映状況】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・庁内公共交通ワーキンググループによる将来を見据えた公共交通の在り方の検討。 ・老朽化した木製バス待合所の修繕を実施しバス待合環境の整備を行った。 ・市内高等学校に通う生徒に対し通学方法アンケートを実施し通学手段の把握を行った。 	<p>A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>【目標値】</p> <p>①令和2年度比で令和7年度までに5%利用者増 R2→R6=3,054人→3,170人</p> <p>【実績値】</p> <p>①R2 3,054人 ②R3 2,633人 ③R4 2,922人 ④R5 2,688人 ⑤R6 2,804人</p> <p>【達成率】 88.5%(R6目標値比)</p> <p>B 昨年実績と比べ、利用者数は増加したが、R2実績からみて急激な落ち込みは無く、横ばい傾向となっており、地域に欠かせない移動手段として一定の住民が日常的に利用していると推測する(評価B)。</p> <p>【評価の判定基準】</p> <p>A: 目標を達成した。 B: 目標達成80%以上100%未満 C: 目標達成80%未満、又は、補助対象外(1運行当たり2人未満、運行割合30%未満)</p>	<p>三陸鉄道や民間路線バスとの接続に留意したバス時刻としたが、今後も、待ち時間の調整や、運転免許証を返納した住民等への割引制度の周知を行っていく一方で、収支の改善を図るため、運行ダイヤや運賃、運行ルート等の調整を検討する。</p> <p>加えて、生活応援センターで開催される行事等に参加する際、支線部バスを利用していただく等、日常利用に配慮した利便性の高い公共交通として引き続き住民に周知する。</p> <p>また、みちのく潮風トレイル等で千畳敷などの三陸ジオパークを訪れる観光客から支線部バスダイヤの問い合わせも増えていることから、観光客を迎え入れる足としての役割も担えるよう、路線の周知など啓発活動を継続的に行っていきたい。</p>

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(2事業年度前)(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
スクー株式会社	<p>・にこにこバス(尾崎白浜方面)</p> <p>利用状況の推移を捉え、運行ダイヤの見直し等を検討するとともに、バス待合環境の整備や利用促進を図るための状況確認等を行い、事業の周知に力を入れる。</p>	<p>【前回(2事業年度前)の評価結果】 コロナ禍により利用者数は目標値に届かなかったことから、三陸鉄道や県交通バスとの接続時間の見直しや、運転免許証の返納者に対する割引制度の周知等を継続的に行い、生活に配慮した利便性の高い公共交通を目指していく。</p> <p>【評価結果の反映状況】 ・庁内ワーキンググループによる将来を見据えた公共交通の在り方の検討。 ・老朽化した木製バス待合所の修繕を実施しバス待合環境の整備を行った。</p>	<p>A 事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。</p>	<p>B</p> <p>【目標値】 ①令和2年度比で令和7年度までに5%利用者増 R2→R6=3,418人→3,570人</p> <p>【実績値】 ①R2 3,418人 ②R3 2,654人 ③R4 3,141人 ④R5 3,389人 ⑤R6 3,476人</p> <p>【達成率】 97.4%(R6目標値比)</p> <p>昨年実績と比べ、利用者数は増加に転じた。令和3年度から微増し、コロナ過前の水準に戻っていることから、地域住民の移動の足となっているものと推測する(評価B)。</p> <p>【評価の判定基準】 A: 目標を達成した。 B: 目標達成80%以上100%未満 C: 目標達成80%未満、又は、補助対象外(1運行当たり2人未満、運行割合30%未満)</p>	<p>三陸鉄道や民間路線バスとの接続に留意したバス時刻としたが、今後も、待ち時間の調整や、運転免許証を返納した住民等への割引制度の周知を行っていく一方で、収支の改善を図るため、運行ダイヤや運賃、運行ルート等の調整を検討する。</p> <p>加えて、生活応援センターで開催される行事等に参加する際、支線部バスを利用していただく等、日常利用に配慮した利便性の高い公共交通として引き続き住民に周知していく。</p>